

1. 認知症を正しく知ろう

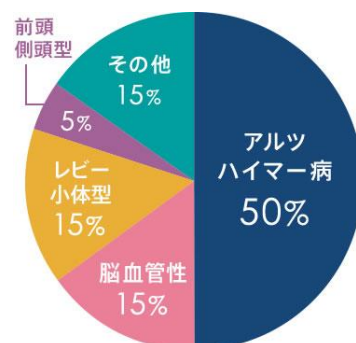
認知症は脳の病気です

認知症は、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることにより、日常生活に支障がある状態のことを言います。原因となる病気はいくつかあります。誰にでも起こる可能性があります。むやみに怖がったり、あきらめたりせず正しい知識を持って認知症を理解しましょう。

認知症を引き起こす主な脳の病気

脳の働きが悪くなって認知症は起こりますが、その原因はひとつだけではありません。

右記の上位3つが3大認知症とされています。



【アルツハイマー型認知症】

脳の細胞が
ゆっくり死んで
脳が縮んでいく



- ・女性に多い
- ・ゆっくりと症状が進む
- ・機能低下は全般的に進む
- ・もの忘れの自覚がなくなる
- ・人格が変わることがある

早期発見が
重要！

【脳血管性認知症】

脳の中の血管が
詰まったり切れたりして
栄養や酸素が
行き渡らずに
一部の細胞が死んでしまう



- ・男性に多い
- ・再発のたびに段階的に進行する
- ・機能低下はまだらに起こる
- ・初期にはもの忘れの自覚がある
- ・人格は比較的保たれる

再発防止が
重要！

【レビー小体型認知症】

脳内に
「レビー小体」という
特殊な物質が溜まって
脳の細胞が傷つく



- ・男性に多い
- ・なだらかに症状が進行する
- ・機能低下は全般的に起こる
- ・初期にはもの忘れの自覚がある
- ・幻覚があらわれる

◎そのほかにも



軽度認知障害(MCI)とは？

軽度認知障害は、正常と認知症の間の状態のことで、MCI とも呼ばれます。認知症のような症状があるものの、生活にはほとんど支障がなく、認知症の診断基準には当てはまらない状態のことを言います。

認知症は発見や対処が早いほど、予防が効果的です。気になることがあれば早めに受診や相談をしましょう。

高千穂町でも認知症簡易スクリーニングテストを実施しています。お気軽にご利用ください。



若年性認知症とは？

認知症は加齢とともに発症リスクが高くなる状態です。

しかし、年齢が若くても発症することがあり、65 歳未満で発症した場合を「若年性認知症」といいます。働き盛りの世代にも起こる認知症は、本人だけでなく家族の生活への影響は高齢者の発症に比べて大きく、社会的にも重大な問題となっています。

どんな症状が起こるのでしょうか

認知症の症状には、脳の細胞が壊れることによって起こる「中核症状」と本人の性格や環境、人間関係などの要因が絡み合って起こる「行動・心理症状」があります。

行動・心理症状は、適切な治療や周囲のサポートで精神的なストレスを取り除くことによって、ある程度の予防や緩和が可能です。

周りの助けがあれば
よくなる可能性あり！

脳の細胞が死ぬ

治りにくい

脳の細胞が死んでしまい起こる症状

中核症状

記憶障害・見当識障害・
実行機能障害・理解・判断力の障害

心の状態や性格・環境によって出る症状

行動・心理症状(BPSD)

妄想・幻覚・徘徊・攻撃的な言動



新しい認知症観

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方。

